

東京大学生産技術研究所 正会員 桐本利彦

私は先日、見学会でボートライナーの受託の神戸市の新交通システムの説明を受けました。現在、営業運営しうる機械性能として最良の交通機関との事です。交通論というものを機械的な面の輸送機と施設とをいさどどのように考えるかの交通需要解析の二つの面の相関として理論が展開されてきたと見る事ができる。我等の交通論においては主なるカギは機械的性能の面ではなく交通需要解析等について多くの綿密な理論が今日も展開されています。又一方で機械的側面においてもよりよい交通機関の開発とまたあくなき追求がなされているのも事実である。磁気浮上りモノレールであり。そして機械性能は別として現存するがすべてがそのあり方がかならずしも交通論的に成り立って有効であるとはいえない状態であり計画論の欠陥という現状が変化しているといえない。実績的であるならばそれでいいかもしれないが投下した社会資本と運営のあり方を考える時営業運営が悪化してはいけなと思う。ここで私の一つの提議というか提議であり、て完無であったとはいわれないが交通論が相手として取り組むべき新しいこの面についてのアプローチが余念なくされていると認識せざるを得ないので一文を起すものであります。ここにおいて一時的比較論は個別の対象のよしあし特徴を論じているものであるが今回の場合は並列した二種の有軌機関と持するべき設定目標をどうおくのかそのためにはどのような理論技法を用いる。小見識調査方法運営方法を語るものである。これは私だけの認識ではなく多くの人の語っている事でありテーマの重要性に敬意を払いつつ今回前提条件の宿題について述べ以後論見解を強化しつつ徐々に展開したいと思います。つまり交通論が当然のことながら主に語られている事は単一交通機関の容量と流れ需要と近時間の予測についての若干の簡易処理であつたといえるのではない。この認識に立つて機械性能がよいからという面から交通論からみれば先駆的交通機関が成立する段階にきた事により現存有軌交通機関との並用についての前提について述べます。理論展開として順序だてると並列する交通機関とどのような最終設定を目的とするか次にその目的のためにはどのような需要分析等調査がなされるべきかそしていかに数値化してどう判断するか更にそれによって今度は交通機関がどうあるべきかのプロセスを論じてみるのが自然と思います。今回は目的設定について述べるがその目的によって以上の場合が考えられると思います。

1. 現存有軌交通機関を全廃して新交通機関に移行する
2. 現存有軌交通機関の一部を新交通機関に移行させる
3. 現存有軌交通機関を現存のままにし新交通機関に補充させる
4. 現存有軌交通機関と新交通機関を共存させる。

1の場合においては単一交通機関としてみた場合と同様に考えるべきであり取決的な方針をとった移行の手段を考えるべきだと思う。2の場合は運賃需要と持主増加量と現存有軌交通機関の劣っている部分と新交通機関が負担する。3の場合は現存有軌交通機関の能力とそのままに活用し持主増加量を新交通機関の負担する。4の場合は自由経済原理によってもっと需要に強ばえる事により両方の代替的向上を計らせる。以上述べたがまた他にケースがあるかもしれない。需要の再配分のなにより引起しの計画の様な感じを受けるものかもしれないが漸進的に以後論見解を強化しつつ徐々に展開したいと思ひその発端と提示したい。

最後に御電車についてその事業サービスの良さを述べてみます。私の試みた感想に基づく最初の内注意力の強い御電車とはとにかくその下ない人気のつくやすい人又は少児女婦老人がとまどう様なサービスの重要要素は乗客が乗客材料が非人道的な統計データの一部ではないのゴリ更に検討を願いたい段階だといえる。そして無人化問題であるが小規模駅の駅員と運転士は可能ならば無人化でもよいかもしれないが交通機関が常態存在として愛すべきもの認識と得るのは事柄とこの対策についてあるといえる。事柄とこの対策について考えられる場合に無

事故はなるべく保持するもの願うものであり安全確保と事故が深化した場合の最少限度にくだりとめる事こそこの交通機関にたずさわる者の公責に前にて守るべき信念と誇りでありそれにむかへず技術的機能向上を成し遂げ製作者に敬意を払いつつもいふに超人化という労働問題の技術的しめさせであるメリットを過度に追求する事なくこの様な応急措置と重労働ではなく重荷に負担させる事は危険であり不可能であり私は感心しない、おそろしく現在の小規模重荷ならばとにかく当然の取扱として大規模化高速化を造回しておりそうであるならば現在においては重労働の配置は単なるトラブル処理の問題ではなく利用者に対する又は社会的セーフティを確保するためには倫理の事柄でありサービスがかわい子ちゃんのおしほり配りも一種のサービスであるが目にみえない逆接経費負担となるバコムこそが男性的信念と誇りのサービスといえると思う。さもなくば二重三重の制置措置を現在の様なトラブルを抱えないメカを考案する義務があると思う。少し批判を加えたがあえて運送に踏み切った事に計画の方の熟慮をあらうべきであり未然たる実施は入替計画の役目と白紙させるものと筆致をもって諸君に評価すべきであるのク健全だと思う、しかし現状では宮々苦心の文明機器をこころこころとこころの様に片なる危険性のあるメカとしてしか評価せずあり方の一の問題を社会的に提示したと思う。この様に思われる事は我々製作者の不本意であるであうしに空しく感じるものであるし、そうあらうとはいへないものであると思います。現定に運送に苦心を費やしている人々とともにこの問題の命の課題とうけと今一回提示のみであらうが今後御座と期して展開したいと思、ている。

以上